

おぼく・わたくしのお気に入り写真の 1枚の写真で思いを伝えよう

対象学年 小学校3～6年

時間数 3～4時間



山中昭岳
 鳴門教育大学大学院
 総合学習開発コース
 (和歌山県熊野川小学校)

使用ソフト&ハード

- Adobe Photoshop Elements
コンピュータ (2～3人に1台)
- デジタルカメラ (班に1台程度)
- ワークシート (デジタルカメラの貼り付け用)

身についたこと

「どうしてこの被写体を選んだのか」「誰に何を伝えたいのか」を「意識」して撮影することができた
 自分の思いを文章化して表現し、みんなに伝えることができた
 客観的に他人の作品を評価することと、自分の作品との比較をすることができた

実践概要

まず、自分たちの身のまわりで、普段からいいなあと思うお気に入りの場所やものなどをデジカメで撮影する。そして、自分の「お気に入り」に対する思いをみんなに伝えるために、写真に対するコメントを書き込む。最後に、「お気に入り写真展」を開き、相互に評価を行う。たった一枚のデジカメ画像から発想を膨らませ、想像力を働かせ、表現することを学んでいく実践だ。

活動の流れ

1 写真の撮影

授業内容を解説した後、普段から「いいなあと思うところ(ものなど)」を撮影に行く。学年の実態や写真のテーマなどに応じて、校外での活動範囲を決定しておく。



基本的なデジカメの使い方は事前に学んでおきます。アングル、逆光、ブレ、マクロ機能など基本的な撮影の注意事項は伝えておき、撮影時に意識させるようにします。グループで行動し、グループ内でデジカメの使い方の教え合いや、様々な視点から撮影するような工夫について話し合わせながら活動させましょう。

2 写真の加工・印刷

撮影してきた写真をコンピュータに取り込む。ベストショットを1枚選び、「画像処理ソフト」で簡単な加工をする。加工の必要がなければそのまま印刷。



加工は、切り取り(トリミング) 明暗調整、色調補正など、ごく簡単な機能を使うだけで十分です。画像処理ソフトの操作に慣れている学年であれば、モノクロ変換やセピア調をはじめとして、いくつかのフィルタ機能を試し、子どもたちの思い描くイメージの写真に仕上げてもよいでしょう。

3 タイトルとコメントの書き入れ

「こういう所を見てほしい」とか、「撮影するのに苦労した点」、さらには詩や短歌・俳句などを写真の解説文として書いていく。どこが好きなのか、どういうところを見てほしいのかを、しっかりアピールする。



ここでは、「五感を用いた表現」を重視したいと思います。静止した写真に対して五感で感じたことを表現することで、その場の臨場感が増してきます。

4 写真展を開こう！(プレゼンと評価)

印刷した写真に、題名やコメントを書き入れたシートをつけて写真展を開く。子どもたちには、一通り他人の作品を見た後で「コメントカード」を何枚か書かせて、撮影者に渡す。他人の写真やコメントをじっくりと受けとめ、友だちの作品との相対的な評価を含めて自己評価をする。



クラス内だけでなく、校内全体に公開したり、授業参観や文化祭などで扱ってみてもよいでしょう。また、時間に余裕があれば、撮影した写真をもとに「1分間プレゼン」を実施して、思いを語らせることをお勧めします。発展的には、Webへの公開や交流校とのコンテストなどを実施しても面白いと思います。

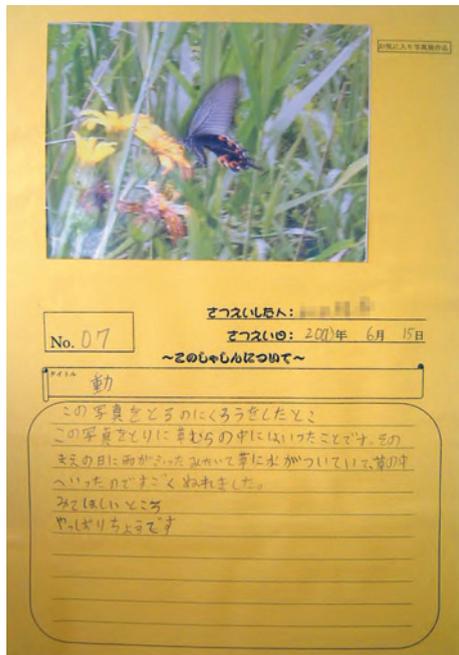
Information

3月27日(土) D-project公開研究会
 プログラム決定!

今すぐ参加の申し込みを!!

先月号のこのコラムでもお知らせした、D-project2003の総決算、春の公開研究会の詳細プログラムが決定しました。毎度のことながら、普通なら一日では収まりきらない内容を、敢えて一日に凝縮しています。さらに詳しい情報は、D-projectのWebサイトで随時お知らせしていきますので、お目当ての実践に狙いをつけて参加してください。
 研究会の後の懇親会は、情報交換と人的ネットワーク作りに最適な場となります。公開研究会の一部と考えて、初めての方も積極的にご参加ください。
 日時 3月27日(土) 10:00～18:00(懇親会は18:30～20:30)
 会場 日本教育会館(東京都千代田区一ツ橋2-6-2)
 参加費 3,000円(当日会場にてお支払いください)

作品例



飛び立つ前のその一瞬を撮ったということや、撮影のときの苦労話などもきちんと書かれている



自分の中で、この花が一番きれいに見える角度をしっかりと考え、撮影している様子がわかる

活動の様子



撮影中の子ども様子。アングルや対象物などを真剣に考えて撮影している



撮影後の様子。早速、自分の撮影した写真の自慢をしている



お気に入りの1枚を選んで印刷したものをみんなで見せ合う



クラスメイトの作品を評価中。「やっぱり自分のが一番」という子どもたちも...



「一枚の写真」で、その「一瞬の思い」を伝えよう

今回の授業実践は、これまで紹介してきた中でも最も手軽にでき、低学年から高学年、中学生から高校生まで学年を問わずに取り組むことができます。単純に言ってしまうと、「みんなに見てもらいたい写真を撮って、タイトルと解説をつけて掲示する」という授業になりますが、情報教育としての要素がこの中にも十分含まれていることは、左ページからもよくわかることと思います。

最近、小学校を訪問すると、デジカメで撮影された学校行事や学習の様子の写真が、廊下の掲示スペースに所狭しと貼られているのをよく見かけます。ただ、よく見ると、やはり教師が撮影したものがほとんどであり、印刷自体も掲示物に書かれたコメントさえも教師によるものということが少なくありません。デジタルカメラは「教師のためのツール」にはなっていますが、「子どもたちのためのツール」にはなりきってはいないのが現状で、子どもたちにそこまでの活用機会がまだ与えられていないのも確かです。「意識して撮影する」、「見てもらうた

めに撮影する」、「その一瞬の思いを他人に伝えるために文章で表現する」といった取り組みは思ったよりも行われていないのです。

一方で、このような取り組みをしている学校からは、「普段は作文が大嫌いな子どもが、一枚の写真からどんどん文章が湧き出てきた」とか、「朝の会のスピーチで何もしゃべれなかった子どもが、一枚のデジカメ画像を見ながらスラスラと自分の思いを語った」ということも聞かれ、取り組みがシンプルで、すぐに成果が現れる実践であるように思います。

山中先生が強調されていたのは、「日常から五感を使った活動をしていることが、素晴らしい写真を撮る秘訣」だということでした。写真はその一瞬を捉えた静止物ですが、それを解説するタイトルや文章は、その場の五感で感じたことを記す必要があります。それができないと単なる「記念写真を撮っておもしろかった」というような感想ばかりになってしまうので、この点は最も配慮が必要な点であるといえるでしょう。

D-project 統括補佐
豊田充泰
和歌山大学教育学部附属
教育実践総合センター



内容とスケジュール（予定）

1. 全体会（10:00～11:45）
- 1-1 <対談>「D-projectのめざすもの」
- 1-2 <パネルディスカッション1>「連画：絵のリレープロジェクト」
- 1-3 <プロジェクト発表会1>「デジタルコンテストプロジェクト」
「マニュアル作成プロジェクト」
2. 分科会（3会場に分かれての分科会です）（12:45～14:45）
- 2-a <子どもプレゼン>「ユニバーサルデザインプロジェクト」
- 2-b-1 <パネルディスカッション2>「ユネスコプロジェクト」

- 2-b-2 <プロジェクト発表会2>「デジタルポートフォリオプロジェクト」
「友だち100人プロジェクト」
- 2-c <ワークショップ>「連画：絵のリレー」
3. 実践発表会（15:00～17:00）
「32本のポスターセッションおよびミニワークショップ」
4. まとめ（17:15～18:00）
懇親会 会費制（3,500円）
プレゼント大会やポスターブースなども行います。
詳細およびお申し込みは、<http://www.d-project.jp>をご覧ください。